

2026年 市場の転換点

上値試しの最終局面と、その先に訪れる調整への戦略的ロードマップ



2026年 総括：上値試し後の反落に備える年

2026年は、主要市場が最後の高値を試した後に重要な調整局面へと移行する転換の年となる。極端な円安・株高シナリオは限定的であり、「節目での利食い」と「押し目での分割買い」を組み合わせたレンジ戦略が極めて有効となる。



ドルインデックス (DXY)

長期下落トレンドが継続。ドル売り基調が市場全体の前提となる。



株式 (日経平均)

ドル安を背景に年初から前半にかけて上値を試す展開。5.4万円付近を天井圏と想定し、その後は調整へ。

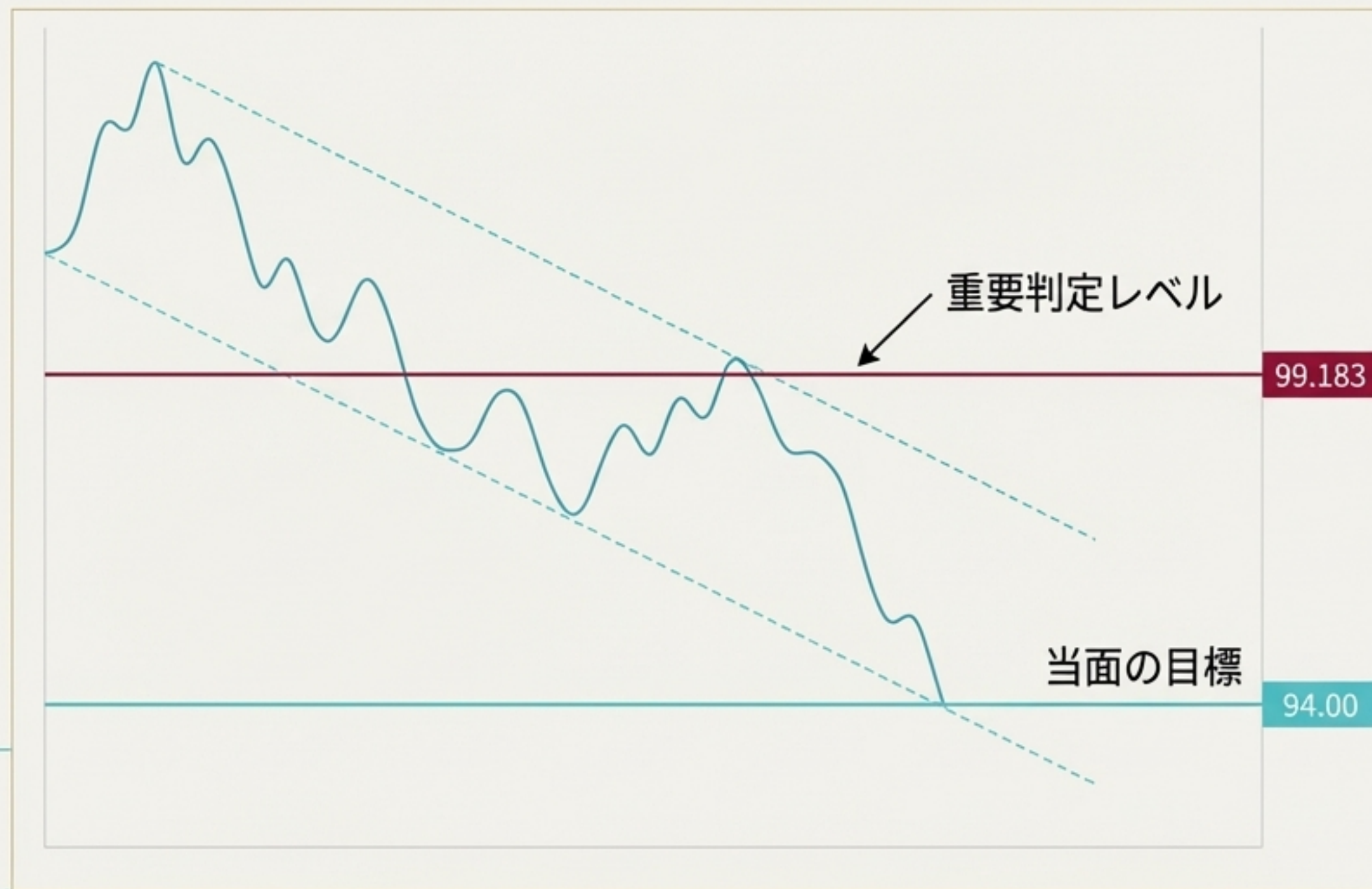
¥ € \$

為替 (円相場)

クロス円は株価に連動し天井を形成。ドル円は介入警戒感から上値が重く、160円台後半は絶好の売り場となる可能性。

すべての鍵を握るドル安トレンド：ドルインデックス(DXY)の長期下落シナリオ

ギャンファンおよびエクспанション分析は、ドルインデックスが長期的な下落トレンドにあることを示唆している。このドル売り基調が2026年の各アセットクラスの動向を規定する。



重要判定レベル (Critical Level)

2025年の終値が **99.183** を下回るかどうか
が鍵。下回った場合、2026年も戻り売り
戦略が継続される公算が大きい。

当面の目標 (Near-term Target)

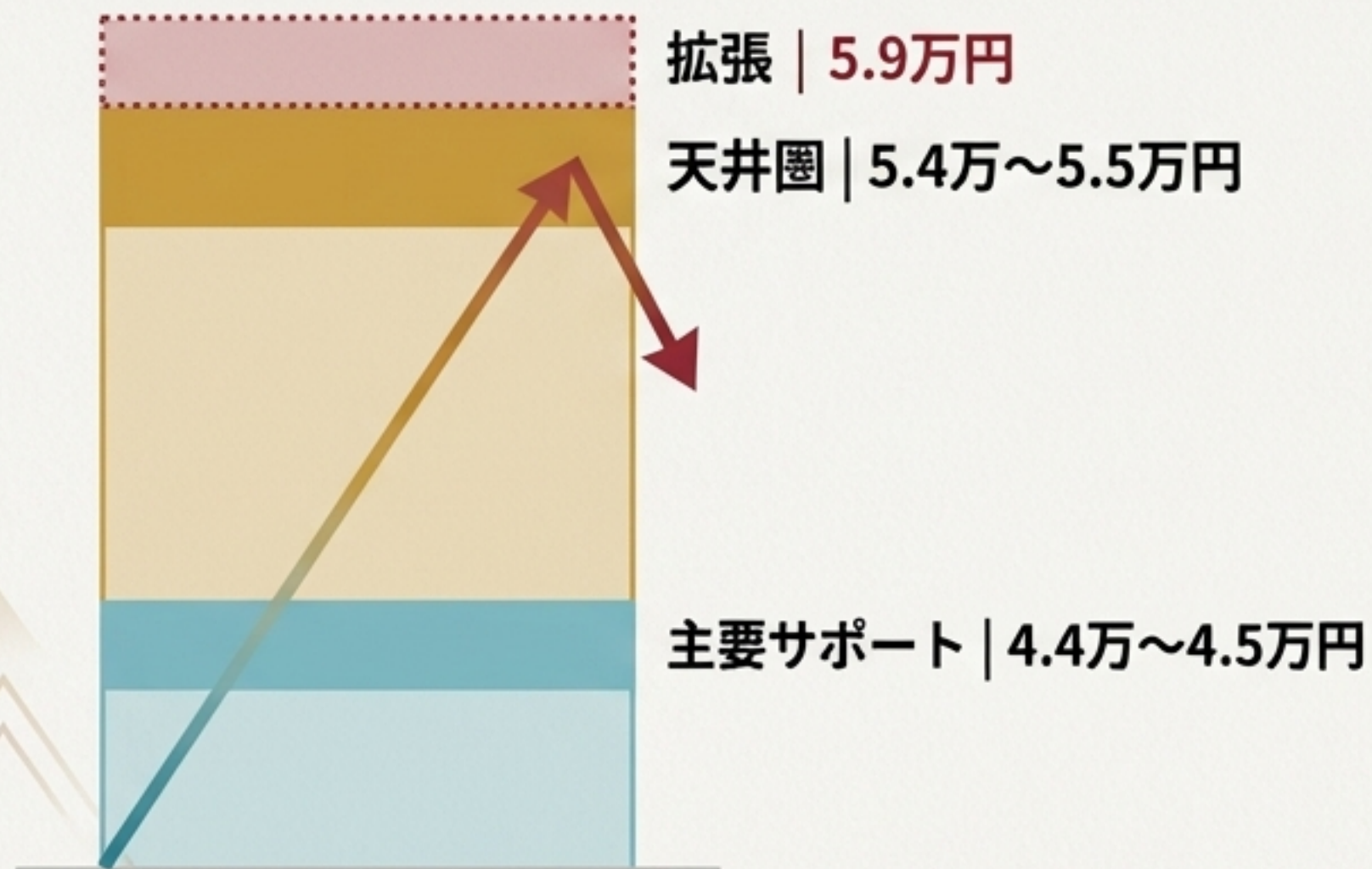
94.00 付近が下落の最初の目処となる。

市場への影響 (Market Impact)

ドル売り継続は、USD/JPYの上昇を抑制
し、クロス円も高値圏で反落しやすい地
合いを醸成する。

日経平均：5.4万円の頂へ、その先の調整を見据える

1971年を起点とする超長期上昇トレンドの最終延長局面。ドル安を背景としたリスクオン地合いが相場を押し上げるが、主要な節目到達後は過熱感から反落リスクが高まる。



年間目標レンジ

上限：5.4万円～5.5万円

拡張：5.9万円（フィボナッチ・エクспанション
4.236 到達シナリオ）

主要サポート

4.5万円～4.4万円（反落時の最初の支持帯）

4.0万円（下方リスクシナリオ）

基本戦略

5.28万～5.4万円ゾーンは達成感・過熱感から利食いを優先。
反落後の4.4万～4.5万円での支持を確認できれば、買い直しを検討。

クロス円：株価と連動する最後の上昇と、2年規模の調整フェーズ

コアテシス：クロス円は株価指数との相関性が高く、日経平均の上値試しと連動してもう一段の上昇余地が見込まれる。しかし、各通貨ペアがそれぞれの主要な抵抗帯に到達した後は、売り圧力が強まり、2年程度続く調整局面に入る可能性に備える必要がある。



連動性

株価の上昇・過熱局面 = クロス円の上昇・天井形成

時間軸

年初～前半で高値を試した後、段階的な下落へ。

戦略的インプリケーション

各通貨ペアの主要抵抗帯は、一斉に売り場となる可能性を示唆。個別分析が重要となる。

ドル円：介入警戒圏が重くのしかかる160円台の攻防

長期トレンドは上昇を維持するも、163円～165円付近に存在する極めて強い抵抗帯と当局の介入警戒感が上値を抑制。高値更新後も20～30円規模の急反落リスクを常に内包する。



2026年目標レンジ

上限：167円
中心：162円
下限：149円

主要レジスタンス

163円, 165.5円

主要サポート

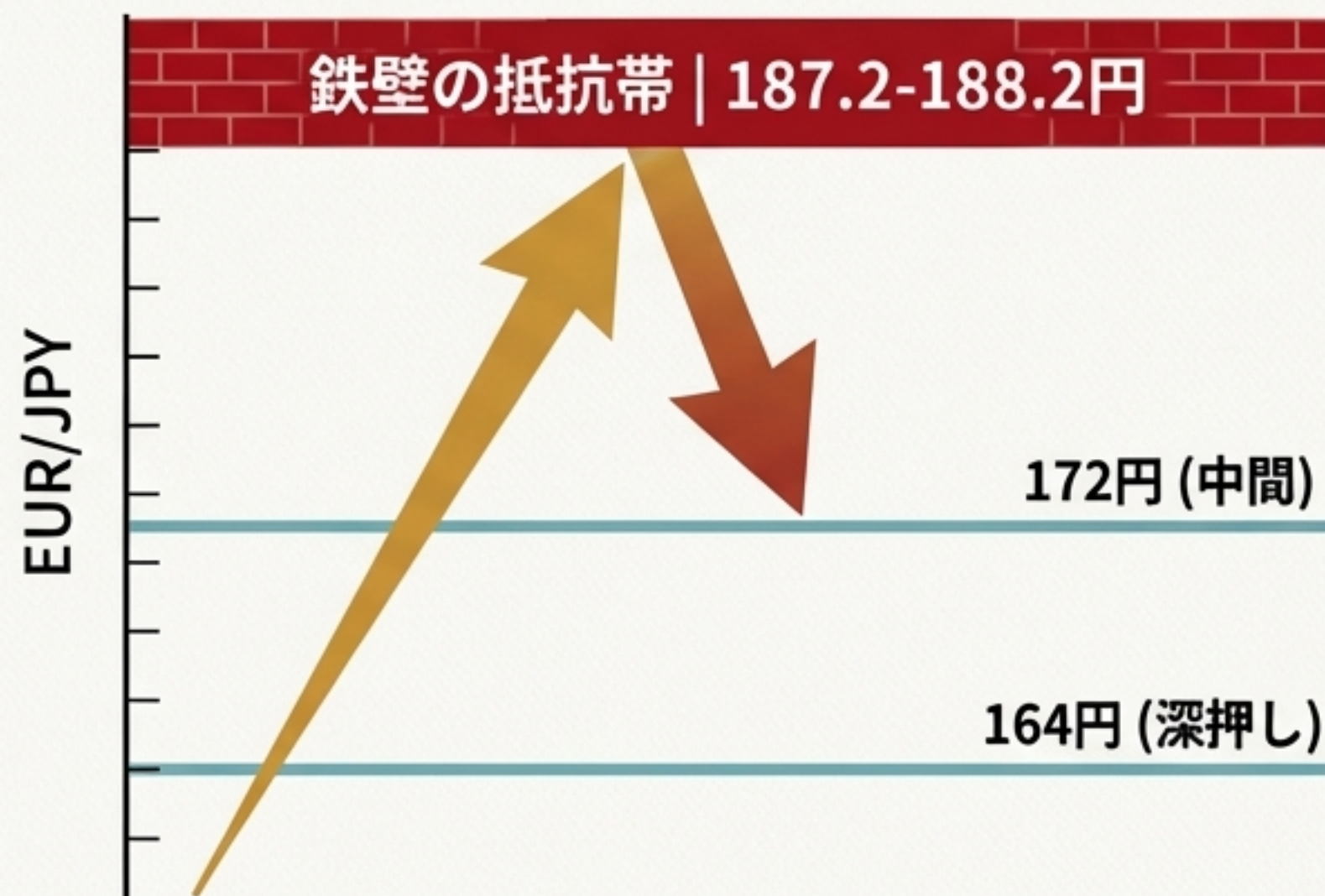
151円-146円, 142円, 129円

基本戦略

163円～167円への上昇は戻り売りを優先。146円～151円ゾーンは分割での押し目買いを検討。170円台は非現実的 と判断。

ユーロ円：188円の鉄壁が告げるトレンド転換の号砲

複数のテクニカル指標が重なる187.266～188.22円の抵抗帯は極めて強力であり、このゾーンへの到達は長期的な上昇トレンドの終焉と反落の開始を示唆する可能性が高い。



年間目標値

MAX : 200円

中間 (Intermediate): 191円

主要抵抗帯

187.266円 ~ 188.22円 (半値戻し + 過去高値)

トップ形成後の押し目

中間 (Intermediate): **172円**

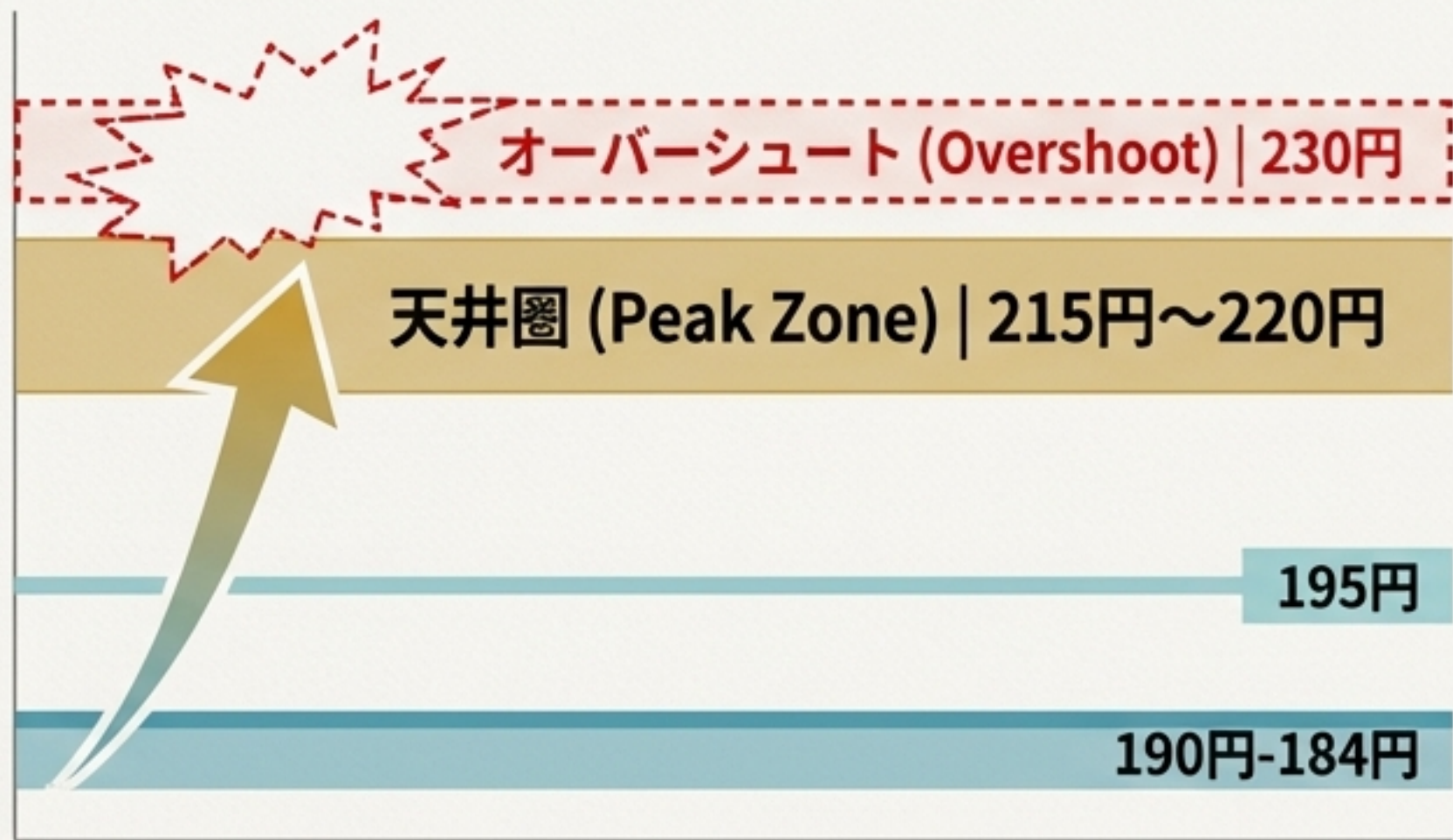
深押し (Deep): **164円** (2年程度かけるシナリオ)

基本戦略

187円～188円の抵抗帯への到達を待ち、強力な売りシグナルとして捉える。

ポンド円：オーバーシュートを警戒、215-220円ゾーンが天井圏

上昇の勢いは強いものの、215円を超える水準ではオーバーシュートの警戒が必要。
2025年夏頃までのレンジ試しの後、2026年は調整フェーズに入る公算。



GBP/JPY

上側目標 (Upside Targets)

中間 (Intermediate): **220円**
主要 (Primary): **215円** (1.68倍水準)
拡張 (Extended/Overshoot): **230円**

下側目安 (Downside Targets/Support)

主要支持 (Primary Support): **195円**
深押し (Deep Support): **190円 ~ 184円**

基本戦略 (Core Strategy)

215円~220円を天井圏とみなし、売り戦略を準備。230円へのオーバーシュートは絶好の売り場となる可能性。

豪ドル円：116円が示すリスクオンの最終到達点

現状は上向きトレンドが継続。株価指数の上昇と連動し、リスクオンセンチメントの最終到達点として116円が視野に入る。ただし、目標達成後は反落リスクに注意。



上側目標 (Upside Targets)

中間 (Intermediate): **110円**

最大 (Maximum): **116円** (株価指数が3万[ドル]到達時のイメージ)

押し目候補 (Dip-Buying Candidates)

97円

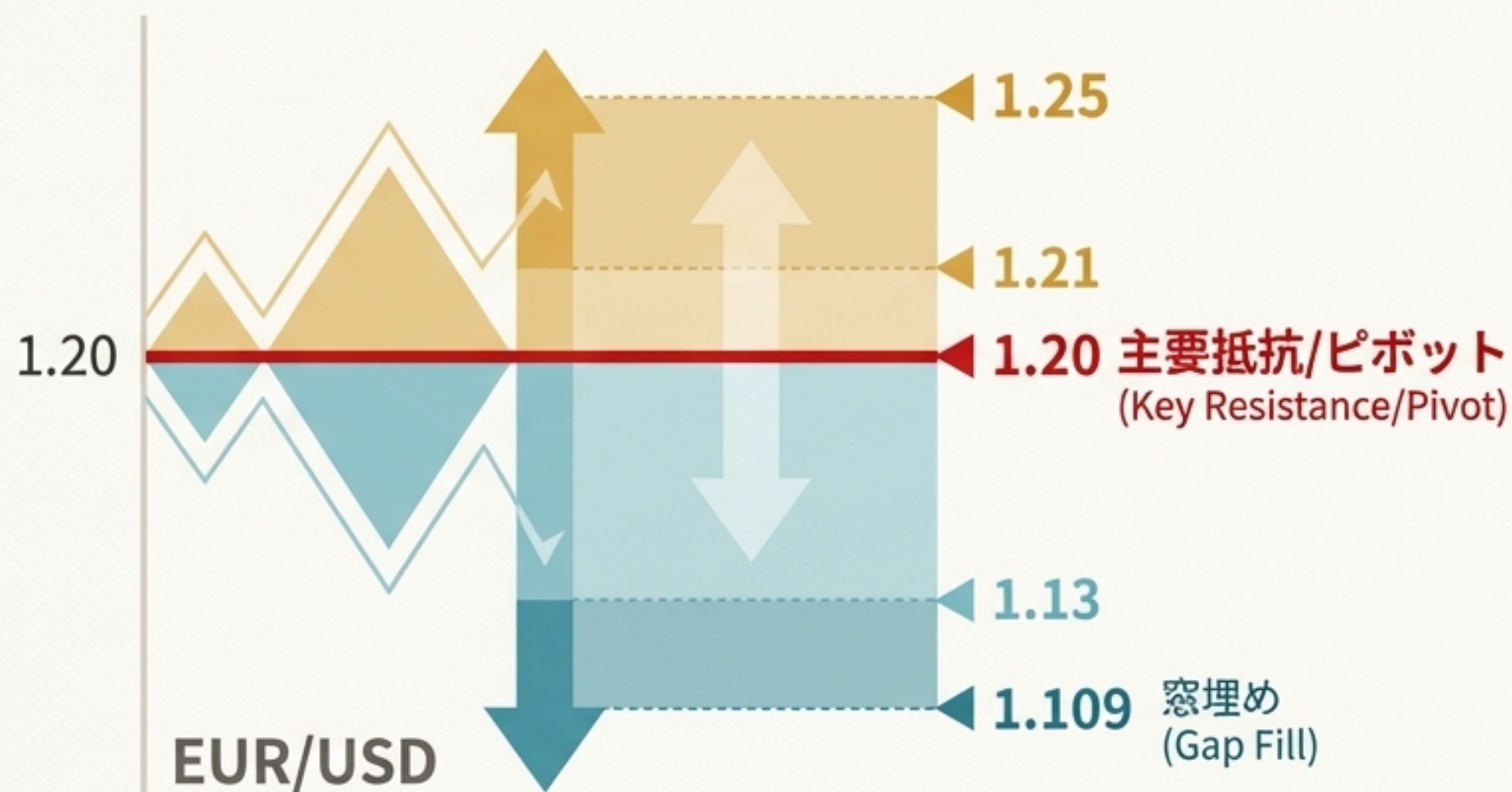
89円 (節目到達後の深押し)

基本戦略 (Core Strategy)

上昇トレンドをフォローしつつ、**110円～116円**ゾーンでの利食いを準備。目標達成後の下落に備える。

ユーロドル：ドル安シナリオを体現する1.20ドル超えへの挑戦

ドル安トレンドを背景に、上昇継続を想定。主要な抵抗帯である1.20ドルをブレイクできるかが焦点となるが、節目での押し目買いが有効な戦略。



ピボット帯

1.07 (持ち合い中心)

1.20 (主要抵抗)

上値目標

中間 (Intermediate): **1.20 ~ 1.21**

最大 (Maximum): **1.25**

押し目候補

中間押し (Intermediate): **1.13**

深押し (Deep): **1.109** (窓埋め)

基本戦略

1.20近辺での利食いを優先。1.13~1.109への押し目は再上昇を狙った買い場と判断。

前提を覆すリスクシナリオと注意点

本稿のシナリオは以下の前提に基づいています。これらの条件が変化した場合、戦略の見直しが必要となります。



介入・金融政策

(Intervention & Monetary Policy)

- USD/JPYの160円台での当局介入は上値を強く抑制するが、その規模と頻度は不確定要素。
- 予期せぬ金融政策の変更は、為替・株式市場に急変動をもたらす可能性がある。



テクニカル前提

(Technical Assumptions)

- ギャンファンやエクспанションの主要節目はトレンド転換の目安だが、「だましのブレイク」やノイズの増加には常に注意が必要。



相関関係の変化

(Shifts in Correlation)

- クロス円と株価指数の連動性が崩れた場合、特に株価の過熱局面でクロス円が先行して下落するリスクがある。

2026年 戦略サマリー：「節目管理」と「レンジ戦略」の徹底

年間を通じて、トレンドを一方向的に追うのではなく、事前に定めた重要価格帯（節目）での逆張りを基本とする「レンジ戦略」を徹底する。

アセット (Asset)	売り検討ゾーン (Sell Zone)	買い検討ゾーン (Buy Zone)
日経平均 (Nikkei)	5.4万円 ~ 5.9万円	4.5万円 ~ 4.4万円
ドル円 (USD/JPY)	162円 ~ 167円	149円 ~ 146円
クロス円 (Cross-Yen)	各通貨の主要抵抗帯 (e.g., EURJPY 188, GBPJPY 215)	調整後の主要サポート
ユーロドル (EUR/USD)	1.20 ~ 1.25	1.13 ~ 1.109

上限到達時の機械的な利食いと、押し目での段階的なエントリーを規律をもって実行することが成功の鍵。

今すぐ始めるべきアクションプラン：2026年に向けた準備リスト

2026年の市場機会を最大限に活用するため、以下の準備と計画策定を推奨します。



ドル円：押し目買いゾーン（146～151円）における指値注文の設置と資金配分計画を策定する。



クロス円：GBP/JPY・EUR/JPYの主要抵抗帯を監視し、具体的な売り戦略（トリガー価格、ロット、逆指値）を事前に定義する。



日経平均：5.28万～5.4万円到達時の利食いルールと、4.4万～4.5万円での買い直し条件を文書化する。



ユーロドル：1.20ドル近辺での利食いと、1.13～1.109ドルへの押し目での再参入手順をプレイブック化する。



先行指標監視：ドルインデックスの2025年終値（99.183判定）を確認し、2026年の最終方針に反映させる。



イベント監視：介入や政策変更に備え、経済指標カレンダーと当局者発言のトラッキング体制を整備する。

継続的な情報提供とアップデートについて

市場は常に変動します。本稿で提示したシナリオの進捗や重要な変更点については、以下のチャンネルを通じて継続的にアップデートを提供します。



定期アップデート (Regular Updates)

「フリーパスプランの相場展望シリーズ」にて、より詳細な分析と戦術を継続的に配信します。



臨時アラート (Ad-hoc Alerts)

本稿で言及した主要な節目（例：日経5.4万円、ユーロ円188円）に到達した際は、臨時アラートにて方針を迅速に更新します。